

2. 保健科学課(微生物)

1) 細菌担当

平成22年度に実施した非定期業務は、保健所から依頼される食中毒・有症苦情検査および無症苦情検査並びに市民や行政から依頼される細菌検査であり、表1に検体数の総括を示した。

表1 検体数総括

区分	計	依頼検査	
		行政	一般
食中毒・有症苦情	353	353	
無症苦情	24	24	
その他	45	45	
計	422	422	0

(1) 食中毒・有症苦情検査

平成22年度は、47事例、353検体について食中毒・有症苦情検査を行った。これらのうち病因物質が推定できたものは25事例、判明率は53%であった。

病因物質が推定できたものの内訳はカンピロバクター

8事例、サルモネラ 1事例、腸炎ビブリオ 1事例、腸管出血性大腸菌 1事例、セレウス菌 1事例、アルカロイド類 1事例、ノロウイルス11事例、サボウイルス1事例であった。

詳細は資料に、項目数の内訳は表2に示した。

なお、ノロウイルス等ウイルス検査の詳細は、2) ウイルス担当に掲載。

(2) 無症苦情検査

平成22年度は、13事例、24検体について検査を行った。詳細は資料に、項目数53の内訳は表3に示した。

(3) その他

その他依頼検査の内訳を表4に示した。

2) ウイルス担当

平成22年度に実施した非定期業務は、保健所から依頼される食中毒・集団感染および全数把握並びにインフルエンザ重症サーベイランス等のウイルス検査である。

(1) 食中毒・集団感染のウイルス検査

平成22年度は、25事例（129検体）について、PCR法またはリアルタイムPCR法でウイルス検査を行い、14事例（42検体）からノロウイルス、1事例（4検体）からサボウイルスを検出した（表5）。

(2) 全数把握のウイルス検査

平成22年度は、デングウイルス検査を、ELISA法、PCR法およびイムノクロマト法で10検体について行い、1検体からデングウイルスおよびデングウイルス抗体を検出、さらに1検体からデングウイルス抗体を検出した。

また、A型肝炎ウイルス検査をPCR法で6検体について行い、5検体からA型肝炎ウイルスを検出した。

さらに、麻しんウイルス検査をPCR法および細胞培養法で15検体について行い、いずれも麻しんウイルスは検出されなかった。

(3) インフルエンザ重症サーベイランス等の検査

平成21年度に流行した新型インフルエンザの感染拡大探知のためのサーベイランスとして、インフルエンザ様疾患発生報告が実施されたため、PCR法により集団発生、重症サーベイランスのインフルエンザウイルス検査を行った（表6）。

表4 依頼検査の内訳

区分	検体数	検査項目（件数）
納豆	2	生菌数(2) 加熱処理後生菌数(2) 外観(2)
菌株	14	サルモネラ属菌(9) シーケンス(1) レジオネラ属菌(2) ボツリヌス属菌(2)
喀痰	5	レジオネラ属菌(5)
施設調査	23	レジオネラ属菌(22) 一般細菌数(1) 大腸菌(1)
調整池	1	大腸菌群(1)
計	45	(50)

表5 食中毒・集団感染事例の月別検出状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
ノロウイルス検出事例数	2	0	1	0	0	0	0	3	0	2	3	3	14
サボウイルス検出事例数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

表6 インフルエンザ重症サーベイランス等の検査状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
集団発生検体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
重症サーベイランス検体数	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	6	0	11

表2 食中毒・有症苦情 検査項目内訳

		検 査 項 目																							
検 体 数	計	サルモネラ	腸炎ビブリオ	コアグラーゼ陽性菌	腸管出血性大腸菌	病原性大腸菌	ウェルシュ菌	セレウス菌	エルシニア	カンピロバクター	NAGビブリオ	ビブリオ	フルビアリス	エロモナス	ハイドロフィラ	エロモナス	ソブリア	プレシオモナス	シゲロイデス	一般細菌数	大腸菌群	カビ・酵母	ブドウ球菌	エンテロトキシン	その他
		228	1477	207	106	140	34	11	97	129	92	154	100	100	31	31	31	31	31	31	211	211	1	1	2
		菌 株																							
		9	9		1						8														
		23	100	5	5	15	4	4	8	15	8	8	5	5	5	4	4	4	4	4	1	5			
		93	304	70	19	29	15	4	10	13	10	49	11	11								63			
計		353	1890	282	130	185	53	19	115	157	110	219	116	116	35	35	35	35	35	1	279		1	1	2

表3 無症苦情 検査項目内訳

検 査 項 目																								
検 体 数	項 目 数 計	サルモネラ	腸炎ビブリオ	コアグラーゼ陽性 ブドウ球菌	下痢原性大腸菌	ウェルシュ菌	セレウス菌	エルシニア	カンピロバクター	NAGビブリオ	ビブリオ	フルトアリス	エロモナス	ハイドロフィラ	エロモナス	ソフィア	プレシオモナス	シゲロイデス	一般細菌数	大腸菌群	カビ・酵母	ブドウ球菌	エンテロトキシン	その他
ヒト便・吐物																								
菌 株																								
食品(残物・参考品)	24	53											21	6	8	18								
ふきとり																								
計	24	53											21	6	8	18								

3)感染症担当

感染症担当が平成 22 年度に実施した非定期検査は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）に基づく防疫検便，市民依頼の井戸水等細菌検査，ダニ等の衛生害虫検査（室内塵）および菌株等の依頼検査であり，表 7 に検査検体総括を示した。

表 7 非定期検査検体数総括

業 務 名	検体数	延べ項目数
感染症法に基づく防疫検便	882	882
井戸水等細菌検査	1,575	2,781
衛生害虫（室内塵）	1	1
計	2,458	3,664

(1)感染症法に基づく防疫検便

感染症法に基づく赤痢，チフス，コレラ，腸管出血性大腸菌等感染症発生および海外旅行下痢症等に伴う防疫検便は 882 件であった。それらの依頼別検体数を表 8 に示

表 8 非定期腸内病原菌検査依頼別検体数

区 分	計	東	博多	中央	南	城南	早良	西
赤 痢	514	3	14	4	1	2	490	0
チ フ ス	0	0	0	0	0	0	0	0
パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0
コ レ ラ	0	0	0	0	0	0	0	0
E H E C	367	78	89	44	42	22	21	71
海外旅行下痢症	1	0	0	1	0	0	0	0
計	882	81	103	49	43	24	511	71

表 9 市民依頼の井戸水等検査件数及び不適件数

区 分	計	井戸水	水道水	プ ール水	船舶水	雑用水	その他
東	145 (22)	69 (19)	44 (1)	0 (0)	17 (1)	13 (1)	2 (0)
博多	197 (9)	41 (6)	21 (1)	0 (0)	5 (1)	122 (0)	8 (1)
中央	221 (6)	14 (5)	67 (1)	0 (0)	5 (0)	132 (0)	3 (0)
南	318 (29)	220 (27)	33 (1)	49 (0)	0 (0)	8 (0)	8 (1)
城南	132 (19)	91 (14)	34 (4)	0 (0)	0 (0)	6 (0)	1 (1)
早良	321 (28)	206 (27)	69 (0)	11 (0)	0 (0)	33 (1)	2 (0)
西	240 (39)	189 (34)	34 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (0)	5 (3)
当所	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	1,575 (152)	830 (132)	303 (10)	60 (0)	27 (2)	326 (2)	29 (6)

() は不適件数

した（感染症発生報告は「資料」に掲載）。

(2)市民依頼の井戸水等検査

飲料水の細菌検査は，井戸水 830 件，水道水 303 件，プール水 60 件，船舶水 27 件およびその他 29 件であり，井戸水は一般家庭とボ－リング業者からの依頼，水道水は主として「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」，プール水は「プールの安全標準指針」に基づくものである。なお，それぞれの不適件数は，井戸水 132 件（15.9%），水道水 10 件（3.3%），船舶水 2 件（7.4%），その他 6 件（20.7%）であった。

また，「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則の一部を改正する省令」に基づく雑用水の検査は 326 件の依頼があり，2 件（0.6%）から大腸菌が検出された（表 9）。

(3)衛生害虫検査

平成22年度の衛生害虫（室内塵）の検査依頼は1件であった。